

Title	日本における産業空洞化の分析とその対策 - システム・ダイナミクスモデルを用いて -
Sub Title	
Author	李在鎔(Rii, Jieyon) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1133号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

李 在鎔

主査 柳原 一夫

副査 小野桂之介

青井 倫一

所属

柳原 一夫 研究室

日本における産業空洞化の分析とその対策

—システム・ダイナミクスモデルを用いて—

急激な円高とともに、懸念されていた空洞化が現実のことになってくる日本の経済は今、大きな変換点を迎えている。この論文では、このようなことを踏まえて、今まで日本経済の牽引車の役割をしてき日本の組立製造業を中心にして考えてみることにする。

この論文の目的は、システムダイナミクス理論のシミュレーションソフトである「ITHINKS」を使い、日本の製造業の空洞化現象を系統的に分析し、その背景や原因を探し、今までの日本の製造業の競争戦略・輸出戦略を見直してみることにする。

また、このシミュレーションの結果を用いて、出来ればこれからの日本の製造業の競争戦略、大きくは日本の製造業の在り方についてまで考えてみたいと思う。このことは日本にだけ当てはまることではなくて、韓国を始め、今成長の真っ最中にあるアジアの開発途上国の国々にも、成功と失敗の貴重な代理経験として、これからの長期安定成長に充分参考になると思う。

シミュレーションの結果、日本の企業による量優先主義、シェア競争主義が円高や空洞化にもっと拍車をかけた結果になったのが検証され、一国産業の成長において「スピード」や「度合い」の概念が重視されるべきであることが分かった。